

# 仙台市水道事業の現状と課題



令和5年5月25日  
経営企画課 経営企画係

# 本日本話しする内容

1. 水道事業の現状と課題
2. 基本計画と中期経営計画の概要

# 1. 水道事業の現状と課題

## 2. 基本計画と中期経営計画の概要

# 1. 水道事業の現状と課題

## (1) 長期的な水需要の見通し

1997年以降、仙台市内で使われる水の量は  
増えている？ 減っている？

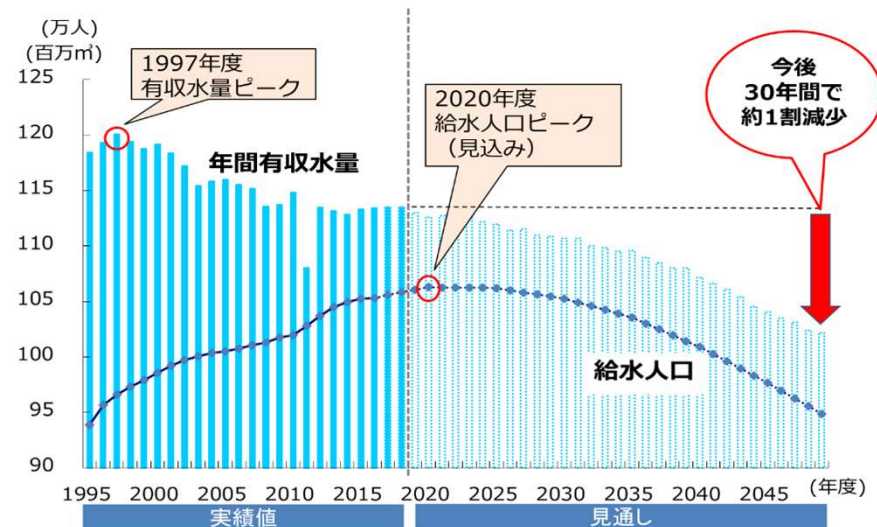


# 1. 水道事業の現状と課題

## (1)長期的な水需要の見通し

### ■ 仙台市における給水人口と有収水量の見通し

- 給水人口は、2026年に減少に転じる見込み  
(参考：仙台市基本計画より)
- 水需要は、1997年度をピークに減少傾向  
節水技術の進化や普及、病院や工場等における  
地下水等の併用といった要因が考えられる
- 水需要の減少傾向は更に強まり、  
今後30年間で約1割減少する見込み



持続的な事業運営のためには、お客さまのニーズに合った水の利活用の提案や、地下水等の使用状況調査や対策検討が必要です。



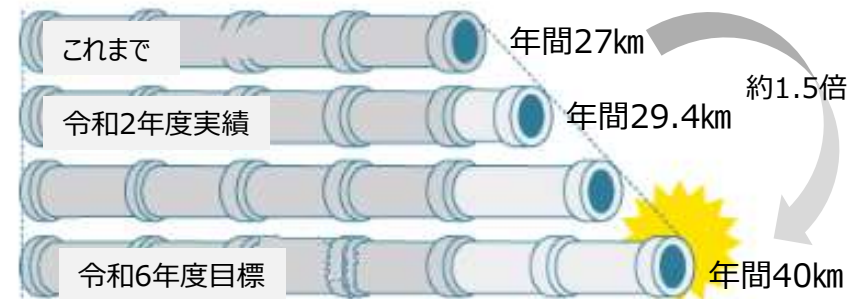
# 1. 水道事業の現状と課題

## (2) - 2 水道施設の課題

### ■ 管路更新ペースアップ

- ・本市では約4,500kmの管路を保有しており、拡張期に整備したものは間もなく更新時期を迎えます。従来の更新ペースでは老朽化が進行し、漏水リスクが高まるおそれがあることから、安定的な給水を持続するためには、**管路更新**のペースアップが不可欠です。

従来より約1.5倍の管路更新ペースアップを目指す



### ■ 災害に強い施設・システムづくり

- ・東日本大震災では、水道施設に大きな被害を受け、その復旧・復興の過程で、これまで以上に災害に強い施設・システムづくりに取り組んできました。
- ・大規模地震や豪雨等の自然災害や水源水質の変化等、様々なリスクの発生に備えた施設整備が必要です。

水需要は減少しても、取り組むべき事業の量は増加していく見込みです。



宮城県仙南・仙塩広域水道の送水管の破損 (口径2,400mm)  
(宮城県企業局提供)

# 1. 水道事業の現状と課題

## (3)組織・人材の課題

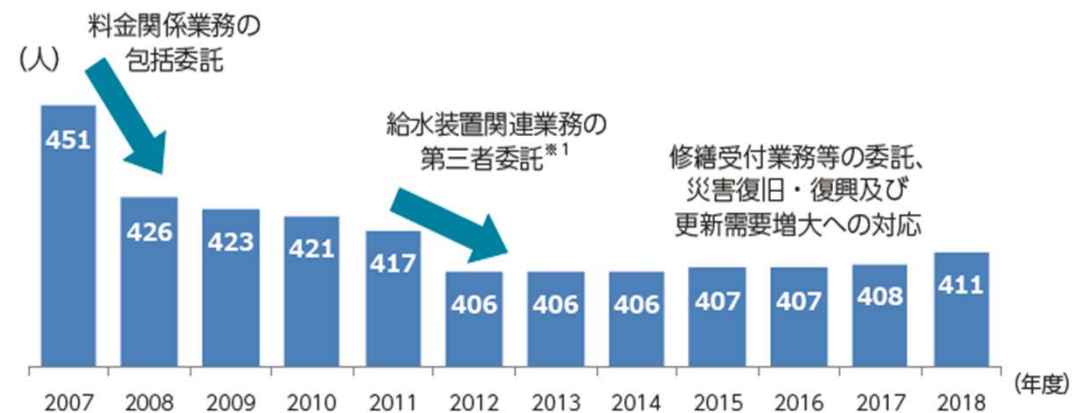
### ■経営の効率化

- 本市では、これまで業務の見直しや一部委託化等により、職員数の削減に取り組み、経営の効率化を進めてきました。
- 今後は人口減少に直面する中、必要な人材の**確保**、専門性の高い職員の**育成**が必要になります。
- また、事業環境の変化に応じた組織体制の見直しが必要です。

### ■技術やノウハウの継承

- ベテラン職員の退職が続き、**技術**や**ノウハウ**の継承も大きな課題です。

水道局職員数の推移と主な業務効率化



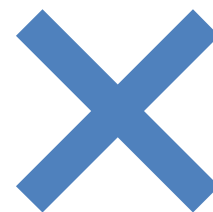
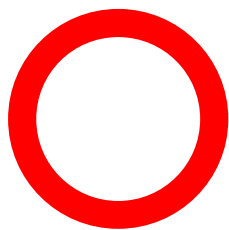
水道施設の老朽化に伴う更新需要の増加により、職員一人当たりの業務量は増大する見込みです。



# 1. 水道事業の現状と課題

## (4) – 1財源の課題

水道局は仙台市役所の組織なので、日々の営業活動等に必要なお金の半分以上は税金でまかなっている。

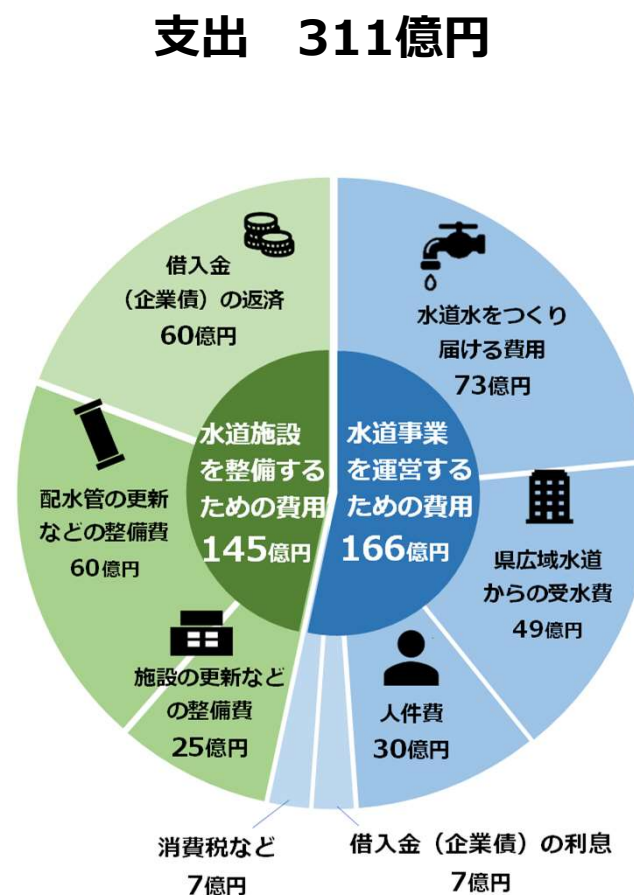
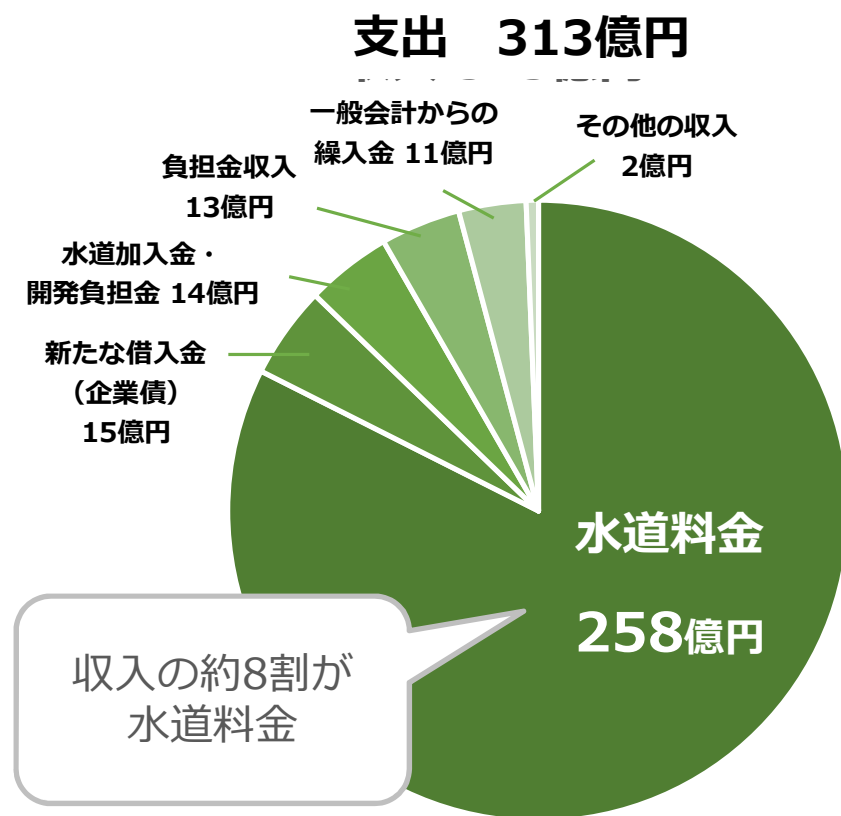


# 1. 水道事業の現状と課題

## (4) - 1財源の課題

### ■ 水道局の収支状況（令和3年度決算（税込））

- 水道事業では、日々の営業活動等に必要な費用や施設の更新等に要する費用は、原則として水道料金収入で賄うこととなっています。
- このため、水道局ではこれらの費用を過不足なく回収できるよう、水道料金を設定しています。



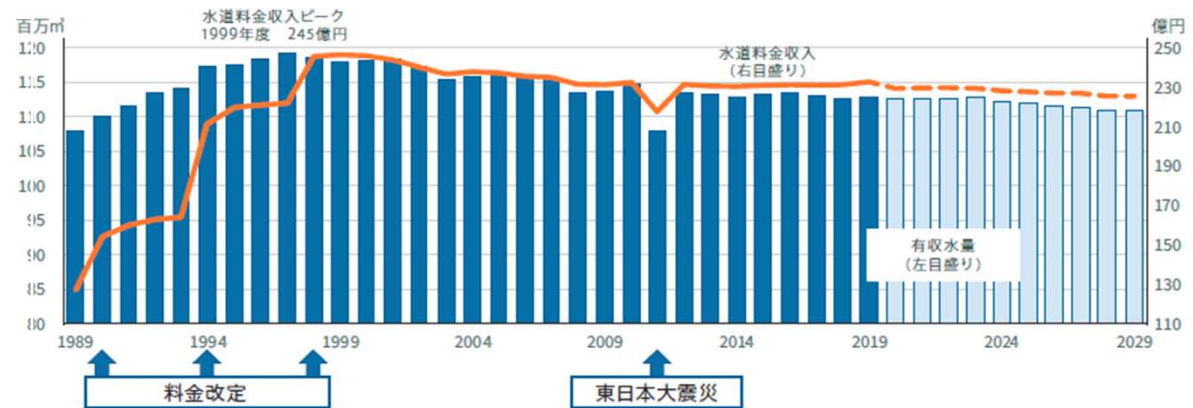
# 1. 水道事業の現状と課題

## (4) - 1財源の課題

### ■ 水道料金収入の減少

- 今後水道**料金収入**は水需要の減少に伴って減少していく見込みです。
- 令和3年度の水道料金収入は、コロナ禍前（令和元年度）と比較して0.7%減少しています。

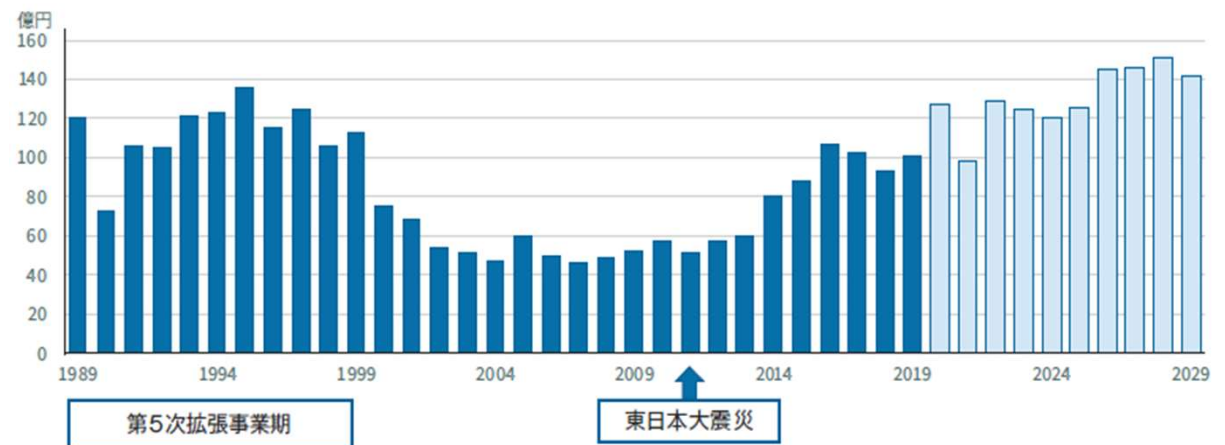
水道料金収入と有収水量の推移



### ■ 建設改良費（施設の更新費）の増加

- 拡張期に集中的に整備してきた施設の更新時期が順次到来
- **建設改良費**は更に増加していく見込みです。

建設改良費の推移

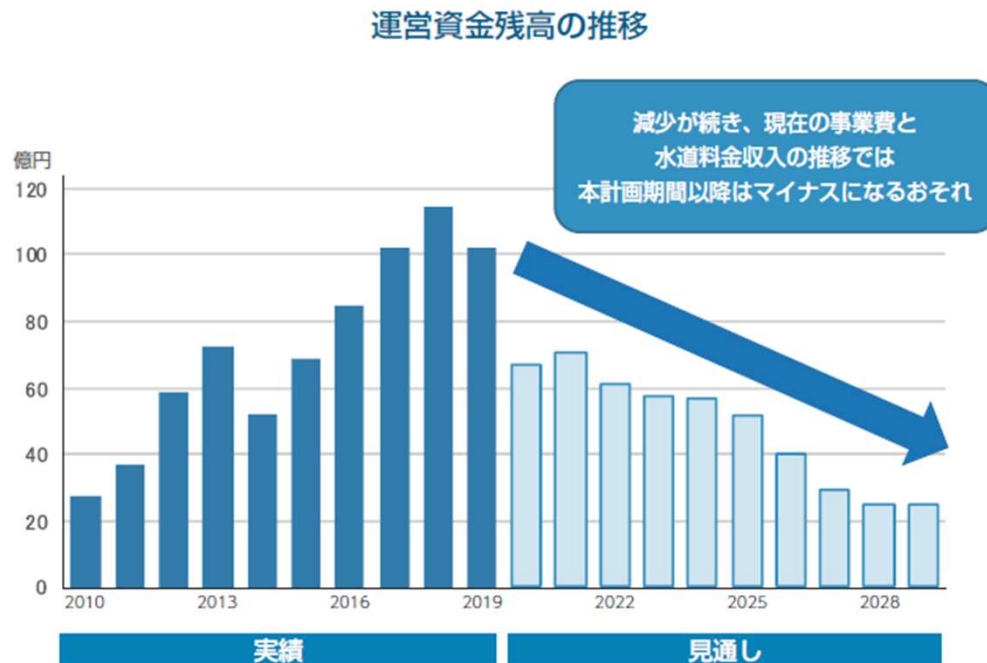


# 1. 水道事業の現状と課題

## (4)－2財源の課題

### ■ 運営資金残高の減少

- ・様々な経営効率化の取組等により、本計画期間内は適切な運営**資金残高**を確保できる見通しですが、本計画期間以降は、マイナスとなる恐れがあります。
- ・お客さまに安定的に給水を継続していくためには、適切な施設更新が不可欠であり、適正な運営資金を確保する必要があります。
- ・そのためには、水道料金の在り方について検討していくことが必要です。



運営資金残高とは、  
分かりやすく表現すると、  
いわゆる水道局の貯金のことです。



# 1. 水道事業の現状と課題

## (5) – 1 関係者との連携・協働

### ■ 関係者との連携・協働する事業運営

・各主体との関係を一層深めながら、課題解決に向けて、ともに取り組んでいく必要があると考えています。

### 関係者との連携・協働のイメージ



# 1. 水道事業の現状と課題

## (5) – 2関係者との連携・協働

平成30年度に実施したお客さまアンケート結果によれば、  
何パーセントのお客さまが水道事業に概ね満足と回答したでしょう？

①30%

②60%

③90%

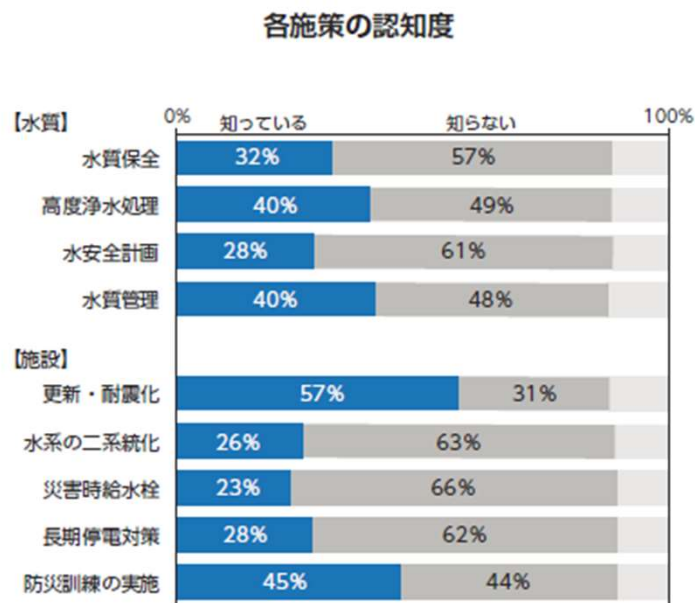
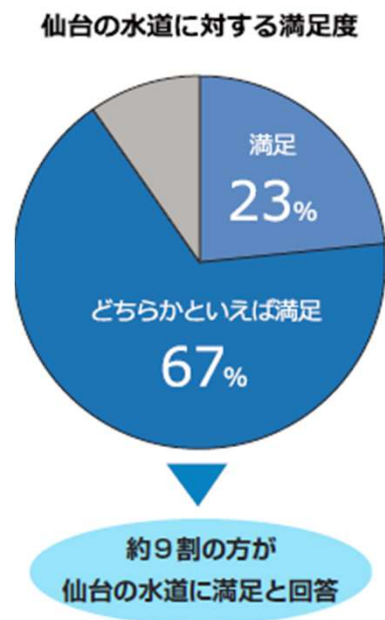


# 1. 水道事業の現状と課題

## (5) – 2関係者との連携・協働

### ■お客さまや地域団体との連携・協働

- ・H30年度に実施したアンケートでは、90%のお客さまに概ね満足いただいていることが分かりました。
- ・水道事業の直面する課題について、お客さまの理解が得られるよう積極的に広報していくことや、今後のサービス水準やリスク管理の考え方、コストバランス等、将来の水道事業の在り方について、お客さまと協働して考えていく必要があると考えています。



水道サポーターのような集合参加型のイベントのほか、SNSや動画配信などインターネットも活用したよりわかりやすい広報にも取り組んでいます！



H30年度「水道に関するお客さま意識調査結果」より

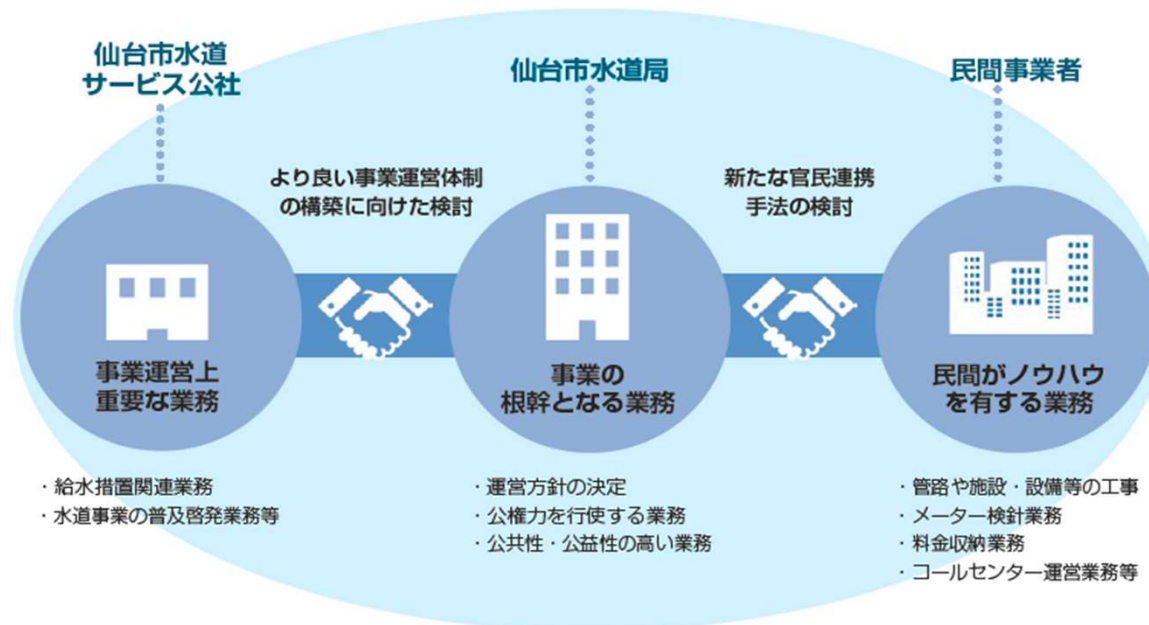
# 1. 水道事業の現状と課題

## (5) – 3関係者との連携・協働

### ■ 民間事業者・仙台市水道サービス公社との連携・協働

- ・事業の根幹となる業務は引き続き水道局が実施していきますが、**民間事業者**が技術やノウハウを有する分野においては、新たな**官民連携**手法の活用を積極的に検討していく必要があります。

### 今後の連携のイメージ



本市水道局と民間事業者が共同出資し設立した仙台市水道サービス公社は、事業運営上重要な業務を担っており、ともに水道事業を支えてきました。





# 1. 水道事業の現状と課題

## (5) – 4関係者との連携・協働

### ■他の水道事業体との連携・協働

- ・近隣水道事業体とお互いの**地域特性**を踏まえ課題を**共有**し、共同での課題解決による効果が明確化できた取組から、段階的に取り組んでいきます。

### 震災の教訓を風化させない取組の一例



日本水道協会 水道研究発表会（英語部門）



第3回国連防災世界会議公式関連イベント



第9回日米台水道地震対策ワークショップ（仙台市水道局開催）



東日本大震災を経験した政令指定都市として、震災の教訓を風化させない取組を継続し、地域の中核水道事業体としての責務を今後も果たしていきます。





1. 水道事業の現状と課題

2. 基本計画と中期経営計画の概要



## 2. 基本計画と中期経営計画の概要

### (2) 基本計画と中期経営計画の説明

#### ○基本計画とは・・・

- ・将来にわたり持続可能な事業運営を行うため、80年後の将来を見据えて、目指す3つの将来像と、その実現に向けた今後の10年間に取り組む**12の「施策の基本的方向性」**をまとめた、本市水道事業における最上位計画（計画期間：10年）

#### ○中期経営計画とは・・・

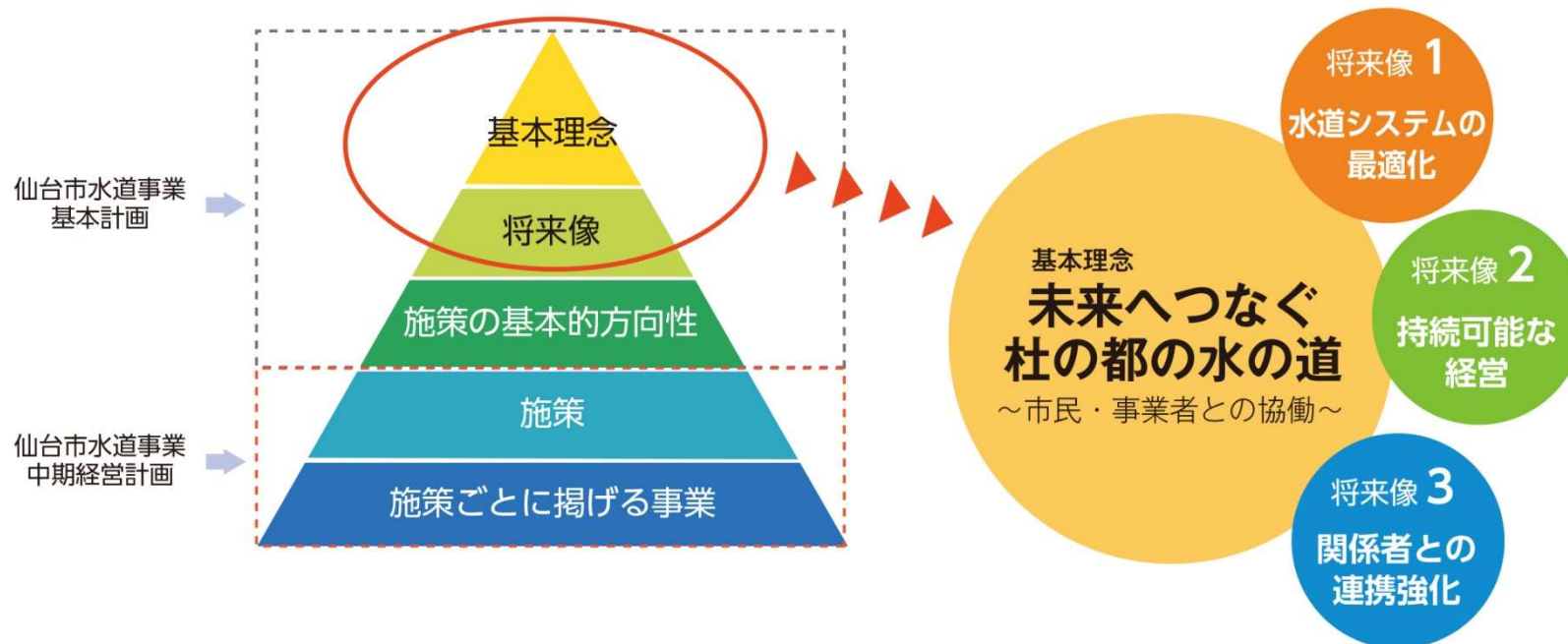
- ・基本計画に沿って、事業展開を計画的に図るための具体的な事業内容を掲げた実施計画（計画期間：5年）
- ・12の施策の基本的方向性に基づく**24の施策と44の事業**で構成

## 2. 基本計画と中期経営計画の概要

### (3) 基本計画と中期経営計画の関係性

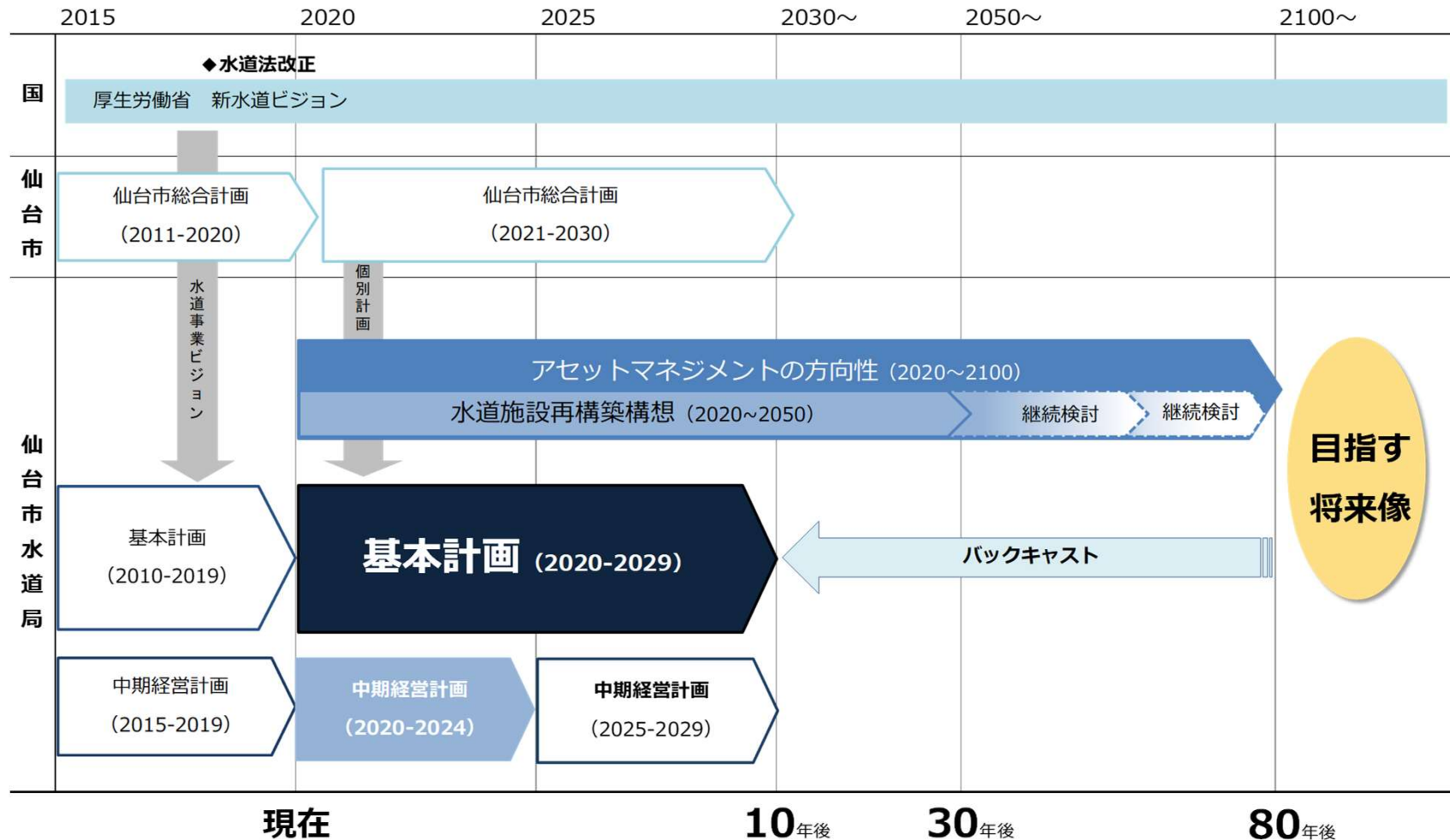
基本理念から施策の基本的方向性までを定めたものが基本計画であり、  
施策及び施策ごとに掲げる事業を定めているのが中期経営計画。

基本計画で掲げる  
基本理念と3つの将来像



## 2. 基本計画と中期経営計画の概要

### (4) 計画の位置づけ



- 基本計画では、80年後に目指す将来像を設定し、今後10年間に取り組むべき施策の基本的方向性を定め、この方向性に沿って取り組む具体的な事業については、前期・後期5年ごとに中期経営計画を策定し事業を推進している

## 2. 基本計画と中期経営計画の概要

### (5)重点施策

24の「施策」のうち、課題を踏まえ新たに取り組む施策や、更に強化して取り組む施策は「重点施策」と位置づけている

#### 施策2-1 管路更新ペースアップ

漏水の発生リスクや、地震等の災害発生時の被害を抑えるために、管路更新のペースを上げて、老朽化した管路の更新・耐震化を推進する



老朽管の更新工事

#### 施策4-1 浄水場の再構築

稼働開始から約60年を迎えた国見浄水場の更新時期に合わせて、大倉ダムを水源とする国見浄水場と中原浄水場の統合や茂庭浄水場の長寿命化等を進める



国見浄水場

(稼働開始から60年経過)



中原浄水場

(全面改修から44年経過)

※令和3年度末現在

## 2. 基本計画と中期経営計画の概要

### (7)重点施策

#### 施策6-1 水道料金等の在り方検討

老朽化が進む施設の更新財源の確保に向けて、大口使用者における地下水等併用の状況を調査し、水道水の優位性を再認識していただく取組を検討するほか、有識者会議を設置し、適正な水道料金等の在り方について、議論を行う

#### 施策10-1 関係者と連携した災害対応の充実

地域の皆さまとの協働による応急給水活動の推進や災害対応の周知、他の水道事業者や民間事業者との応援体制の充実等、関係者と連携した災害対応の充実を目指す



山元町への仮設水槽設置応援派遣



仙台防災未来フォーラム2022へ出展



# 1. 水道事業の現状と課題

## ここまでのポイント



水需要は減少していき、水道施設は老朽化していく。

節水型機器の普及等で水需要は減少。  
拡張期に整備した水道施設は順次更新時期を迎える。



水道を支える職員一人あたりの業務量は増加していく。

水道施設が更新時期を迎え、業務量が増加するため、将来的に局内外のマンパワーが逼迫。



日々の営業活動にかかるお金をまかなっている  
水道料金収入は減少していく。

水道局の運営にかかるお金は水道料金で賄っているが、水需要の減少に伴い料金収入も減少する。



課題解決には、関係者との連携・協働が必要。

お客さまや地域団体、近隣事業体、民間事業者、仙台市水道サービス公社と連携を強化する。



こうした課題を踏まえ、  
水道局では基本計画と中期経営計画を策定・実行

# ご清聴ありがとうございました

本市では令和5年で給水100周年となるこれまでの歴史を礎としつつ、新たな時代に向けて更なる飛躍を目指していきたいと考えています。  
「水道局ってどんな取組をしているのかな？」と思ったら、ぜひ基本計画の冊子もご覧になってみてください！

